



部活動について ⑤

では、続きを書きます。

『遠い空で きっと』は、1998年にリリースされた「MOTHER EARTH」という大黒摩季さんの7枚目のオリジナルアルバムの中に収録されている曲です。

遠い空で きっと

大黒摩季

1999年の8月に、第21回全国中学校ソフトボール大会が金沢市営専光寺ソフトボール場で開催されました。私は、その大会の開催地実行委員長として大会運営に携わりました。前年の9月から1年間、事務局勤務となり学校から離れて、その仕事に専念していました。

閉会式の前日のリハーサルで、選手退場のための曲がしっくりこなくて、音楽担当の先生に私は、曲の再選考をお願いしました。その先生は、その夜、徹夜で曲選びをして下さり、準決勝が始まる2時間前に、「この曲を使いたい」と言って、大黒摩季さんすら知らない私に、この曲を聴かせてくれました。

そして、決勝戦終了後の閉会式で、女子優勝 千厩中学校（岩手県）と男子優勝 鏡中学校（高知県）を含めた4校が、この曲が流れる中でグラウンドを行進しました。

閉会式後に、副委員長と握手して大泣きをしたことを今でも思い出します。

閉会式で挨拶をして下さった日本中体連の黒木専務理事から「素晴らしい閉会式でした」と言われたときも、炎天下で泣きました。

あのときの大会スローガンは、

「精一杯に輝いて 最高の笑顔 ここ石川で！」でした。

全国から集まってきた精鋭の中で、日本一に輝いた中学生。

そして、その学校の先生方や保護者の方々。

だけではありませんでした。4日間の大会運営に関わった全ての人たちが、輝いていたと思います。

競技者として、頂点をめざして頑張り抜くこと。

それだけが、スポーツの価値ではないことを、私は、このときに、本当に、体感しました。

いろんな競技会で、裏方で頑張っておられる方々の姿を見る目が変わりました。

恥ずかしながら、あの年になるまで、競技者としての視点しか持てていなかった私でした。



一個の人間

武者小路実篤

自分は一個の人間でありたい。

誰にも利用されない

誰にも頭をさげない

一個の人間でありたい。

他人を利用したり

他人をいびついたりしない

そのかはり自分もいびつにされない

一個の人間でありたい。

自分の最も深い泉から

最も新鮮な

生命の泉をくみとる

一個の人間でありたい。

誰も見えて

これでこそ人間だと思ふ

一個の人間でありたい。

一個の人間は

一個の人間でいいのではないか。

一個の人間

*

独立人同志が

愛しあひ、尊敬しあひ、

力をあはせる。

それは実に美しいことだ。

だが他人を利用して

得をしようとするものは、

いかに醜いか。

その醜さを本当に知るものが

一個の人間。